

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00431

研究課題名（和文）世紀転換期における文化意識の変遷とアメリカ文学史の形成

研究課題名（英文）Transition of Cultural Consciousness and the Formation of American Literary History at the Turn of the Century

研究代表者

貞廣 真紀（Sadahiro, Maki）

明治学院大学・文学部・教授

研究者番号：80614974

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では1880年代から冷戦前夜にかけてどのような文化意識の中でアメリカ文学史が形成されたのかを調査した。主にOscar Wildeのアメリカ西部講演、ニューイングランドにおける文学史ジャンルの活性化がNathaniel Hawthorneの受容に与えた影響、Walt Whitmanの晩年の自然観とプラグマティズムの生成、「若き知識人」たちによるHerman Melvilleの「再発見」、F. O. Matthiessenとチェコスロヴァキアの関係を精査した。その結果、東部の作家を中心に構成されたアメリカ古典文学が西部やアメリカ国外との関連の中で確立される複数の過程が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的および社会的意義の1点目は一次資料の活用による文学史形成の背景の解明、2点目は地方およびトランスナショナルな射程の導入である。1点目として、本研究では新聞や雑誌に掲載された書評、伝記、シリーズへの取り込み、アダプテーションといった作品の外縁の言説が作家・作品の受容を方向づけたのかを検証した。従来取り上げられることが少なかった資料の分析によって、文学史形成の前段階における受容傾向や主流文学史に対する抵抗言説を検証することができた。2点目として、東部中心の文学史確立の動きの中で、アメリカ西部やアイルランド、東欧といった地域がいかに活用されたかを指摘できた。

研究成果の概要（英文）：This study examines the shaping of American classics from the turn of the century to the eve of the Cold War. It mainly explores Oscar Wilde's lectures in the American West and their reception, Julian Hawthorne's biographical criticism and its impact on the classicization of Nathaniel Hawthorne, Walt Whitman's views on nature and their relationship with the birth of pragmatism, the role of the "Young Intellectuals" in the rediscovery of Melville, and F. O. Matthiessen's palimpsestic vision of Czechoslovakia and the Midwest. These examinations reveal how classic American literature, composed of Eastern writers, was established both interregionally and transnationally with Eastern Europe.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：アメリカ文学史 ハーマン・メルヴィル ナサニエル・ホーソーン 環大西洋 アメリカン・ルネサンス ウォルト・ホイットマン ヘンリー・デイヴィッド・ソロー オスカー・ワイルド

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ローレンス・レヴァインによる *Highbrow/Lowbrow* (1988) など、アメリカ世紀転換期の文化意識の意味づけやその変遷については重要な研究があるが、本研究開始当初の背景として、以下の2点が挙げられる。

- (1) 文学史形成の背景の空間を拡張する必要性：労働者の教育や文学史の確立、文学研究に関する大学の制度改革は同時代的にイギリスでも行われていたが、従来の研究では、世紀転換期の知識人の活動やその活動の舞台であり環大西洋批評空間を形成する媒体としての新聞・雑誌が十分に横断的に検証されていなかった。
- (2) 文学史形成の背景の時間軸を拡張する必要性：従来の研究において、アメリカ文学の制度化は *The Cambridge History of American Literature* の出版とそれに続く1920年代の専門雑誌の発刊、大学における研究の制度改革に求められる傾向があった。しかし、文学史ジャンルの発生が19世紀末であったことを踏まえると、文学史形成の土壌については19世紀に遡って再検証する必要がある。また、古典文学およびアメリカ文学史の確立が冷戦構造の確立と連動していたことは従来より指摘されてきたが、冷戦体制確立前の調査を行い、1920年代以降の文学受容と普及を跡づける必要があった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、1880年代から第一次世界大戦を経て1920年代にいたる世紀転換期における「文化・教養」(culture) についての意識を調査し、それがどのようにアメリカ文学史の形成に影響したかを考察するものである。急速な移民の増加、テクノロジーの発展、国際流通ネットワークの形成によって多様な文化がアメリカに流入するなかで、知識人たちは国民が共有すべき「文化」を規定し、文化階級の固定化を試みた。その風潮の中で古典文学が聖別され、文学史が編纂され、アメリカ文学が学問として制度化されていった。本研究は、複数の文化モデルの拮抗と移行の中で、批評家や大学人としての知識人たちが何を「アメリカ文化」「アメリカ文学」として規定しようとしたのか、また、作家たちの中にどのような文化への不満を呼び覚まし、抵抗言説を生み出す契機となったのかを検証するものである。

本研究では、大西洋を挟んで流通していた新聞、雑誌における英米の知識人の批評活動を横断的に精査し、環大西洋批評空間の再構成を試みる。高級文化と文化人類学的意味での文化、ナショナリズムとコスモポリタニズムといった拮抗する複数のイデオロギーが生成されたメカニズムを検証し、アメリカ古典文学の確立がいかなる国際関係の中で生成され、教育活動の中でいかに確立され、さらに海外に輸出されていったのか、文学史生成の背景と、冷戦体制確立前夜に至る展開を記述する。

3. 研究の方法

本研究では、チェコ共和国カレル大学図書館のアーカイブ調査および19世紀の雑誌や地方新聞の検証を行った。また、国内外の学会で研究成果を発表して論点の整理、問題点の再編成を行い、議論の妥当性を確認しながら研究を進めた。研究方法として特筆すべき点は以下の3点である。

- (1) アメリカ文学の制度化におけるトランス・リージョナルな視点の導入
多様化する国民をまとめる「共通文化」の心的要請は、ナショナリズムと結びつく一方で常にコスモポリタニズムの側面を持ち、「ナショナル」の外縁を規定すると同時にその再編を迫るものであった。本研究では「文化」をめぐる二重意識の中で、国内の地域が国外の地域と重ね書きされながら展開されたことに注目した。
- (2) 批評家たちの活動への注目
古典文学作家たち自身による批評行為に加え、同時代および後世の批評家たちの共振関係および対立関係をマッピングし、その活動の要因や影響についての検証を行った。
- (3) 文字媒体以外への注目
「文化」の生成が文字媒体によってのみなされるわけではないことに注目し、オペラ、音楽、写真とアメリカ古典文学作品の同時代的関係や、古典文学作品のアダプテーションによる流通についても検証した。

4. 研究成果

国内外の学会で成果発表を積極的に行い、パネル間での情報共有や参加者からのフィードバックを得ながら研究を展開することで、研究開始時には想定していなかった新たな視野を獲得し、多くの成果を上げることにつながった。また、検証する媒体を文字媒体に限定しなかったこと、1950年代まで調査対象を拡張して俯瞰的な視野をとることで、それ以前の文学史の生成の特徴が浮き彫りになると同時に、その国際的な展開について多くの知見を得ることができた。主な研

研究成果は以下の通りである。

(1) ニューイングランドにおける古典文学の確立についての検証

世紀転換期に活性化した文学史ジャンルの出版物や伝記に焦点し、専門分野として確立されていく文学研究に対する影響および両者の拮抗関係について調査を行った。主流文学史の生成をニューイングランド文壇の衰退を嘆くバレット・ウェンデルの文学史の出版およびハーヴァード大学における教育活動の展開から確認するとともに、従来の研究において調査が十分ではなかったジュリアン・ホーソーンによる伝記の出版と批評活動を検証し、それが世紀転換期の主流文学史の運動と拮抗関係にあったこととその意義について考察した。また、ソローとホイットマンの自然観について検証を行い、それが、プラグマティズムの生成と連動していたこと、さらに、それがその後 1920 年代まで続く文学史の基軸を先取りしていたことを確認した。

(2) ニューヨークにおける古典文学史の確立についての検証

2019 年度 9 月より米国ニューヨークのコロンビア大学で在外研究を行い、1910 年代に登場したアメリカの「若き知識人」(ランドルフ・ポーン、ヴァン・ヴァイク・ブルックス、ルイス・マンフォード) 及び大学人の活動や、1920 年代の英米の雑誌や地方新聞の批評言説、30 年代のアンソロジーを精査し、メルヴィル・リヴァイヴァル言説がいかなる文化意識の中で発生し、教育に定着していったのかを実証的に検証した。また、その成果から、マンフォードとメルヴィルの二重伝記について米国メルヴィル学会誌で書評する機会を得て、両者の著作に通底する「役に立つ過去」についての意識および環境的視点を確認すると同時に、そのキャリアの共振関係を確認することができた。

また、スティーグリッツサークルの写真家ポール・ストランドのニューヨーク時代の映像作品、ニューメキシコでの活動およびニューイングランド文学の伝統と結びついた写真集の出版に注目し、ホイットマンおよびトランセンデンタリズムとタオスを中心に展開したニューメキシコにおけるモダニズム運動の関係や時間意識についての新たな問題系を提示した。

(3) 文学史の国際的生成についての検証

本研究の前研究にあたる「19 世紀環大西洋交流と「アメリカン・ルネサンス」リバイバル」(2016-2018) ではポーの受容における「ケルト文化」への目配りについて口頭発表を行っていたが、本研究ではその出版に向けてさらなる調査を行い、また、ポーやホイットマンと自らを結びつけながらアメリカに自身を売り込んだアイルランド作家オスカー・ワイルドのアメリカ西部講演について検証し、アイルランドの側からアメリカ文学の形成について考察した。インタビューや地方新聞記事を精査すると同時に、ブルーブックシリーズへの取り込みやテレビドラマによるアダプテーションについて検証し、ワイルドがアメリカ文化にとっての「他者」として位置付けられる一方で、南部との境界の曖昧な西部と結び付けられることでアメリカ文学の抵抗言説に取り込まれた状況を解明した。また、ソローやホイットマンについての批評を書き、メルヴィルにも言及しているスティーヴンソンの活動を調査し、環大西洋批評空間の中に太平洋諸島がどのように組み込まれるのかを検証した。また、メルヴィルの『ビリー・バッド』のイギリスにおけるオペラアダプテーションを検証し、アメリカをポストコロニアル的に捉えた本作が、その受容においていかに南アフリカの政治情勢や労働運動、音楽的ポストコロニアリズムを内包していったかを考察した。さらに、F. O. マシーセンのザルツブルクセミナーおよびチェコスロヴァキアにおける教育活動およびその地域主義の系譜を調査したのに加え、チェコ共和国カレル大学でのアーカイブ調査を行い、チェコスロヴァキアにおけるアメリカのポピュラーカルチャーの受容やアメリカ文学の翻訳状況について検証を行った。これらの研究を通じて、アメリカ古典文学史が、国際関係の中でいかに生成されたのかを明るみに出し、環大西洋批評空間を、英米からさらに展開させ、東欧に拡張して考察することが可能になった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 貞廣真紀	4. 巻 49
2. 論文標題 危機のリズムーSpecimen Daysにおける衰弱と自然	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ヘンリー・ソロ研究論集	6. 最初と最後の頁 45-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Maki Sadahiro	4. 巻 25
2. 論文標題 Up from the Depths: Herman Melville, Lewis Mumford, and Rediscovery in Dark Times by Aaron Sachs (review)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Leviathan	6. 最初と最後の頁 96 ~ 101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1353/lvn.2023.a913123	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貞廣真紀	4. 巻 21
2. 論文標題 ウィルダネスの活用 環大西洋的想像力における<ワイルド・ウェスト>	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 オスカー・ワイルド研究	6. 最初と最後の頁 61-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 貞廣真紀	4. 巻 47-48
2. 論文標題 書評：小澤奈美恵著・訳、大島由起子訳『アメリカン・ルネサンス期の先住民作家ウィリアム・エイブス研究 甦るピークオット族の声』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ヘンリー・ソロ研究論集	6. 最初と最後の頁 127-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 貞廣真紀
2. 発表標題 アメリカ文学史の断層 F.O. マシーセン、翻訳、チェコスロヴァキア
3. 学会等名 東大英文学会総会（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 貞廣真紀
2. 発表標題 ポール・ストランドとタオスの〈アメリカン・ルネサンス〉
3. 学会等名 日本アメリカ文学会東京支部3月例会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Maki Sadahiro
2. 発表標題 F. O. Matthiessen's Double Vision of Democracy
3. 学会等名 The Polish Association for American Studies 2023 Annual Conference（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 貞廣真紀
2. 発表標題 もう一つのアメリカン・ルネサンス ソローとホイットマンにおける自然
3. 学会等名 日本ソロー学会全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Maki Sadahiro
2. 発表標題 Billy Budd, or the Problem of Frenchness
3. 学会等名 13th International Melville Society Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 貞廣真紀
2. 発表標題 亡霊のソーシャリズムーメルヴィルとホイットマンの伝統
3. 学会等名 日本アメリカ文学会東京支部 9月例会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 貞廣真紀
2. 発表標題 ウィルダネスの活用ー環大西洋文学空間における ワイルド・ウエスト の生成
3. 学会等名 日本ワイルド協会 第46 回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 貞廣真紀
2. 発表標題 トランスアトランティックの観点から見る『宝島』
3. 学会等名 明治学院大学言語文化研究所シンポジウム メディアと子供：児童文学のトランスカルチュラルな展開
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 貞廣真紀
2. 発表標題 ヨーロッパの心臓からーF. O. Matthiessenの地政学
3. 学会等名 日本ナサニエル・ホーソン協会 東京支部3月例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 貞廣真紀
2. 発表標題 文化と形式 メルヴィル・リヴァイヴァル再考
3. 学会等名 日本英文学会第91回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Maki Sadahiro
2. 発表標題 Transatlantic Dilemma at the Fin-de-Siecle: Melville, Stevenson, and the Pacific
3. 学会等名 Over Seas: Melville, Whitman and All the Intrepid Sailors (Universidade de Lisboa) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 西谷拓哉、高尾直知、城戸光世（編著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 開文社出版	5. 総ページ数 461
3. 書名 『ロマンスの倫理と語りーいまホーソンを読む理由』（貞廣真紀担当「ジュリアン・ホーソンと父の親密圏ー文学史と市場のはざままで」427-43頁）	

1. 著者名 Wyn Kelly, Christopher Ohge	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Wiley-Blackwell	5. 総ページ数 592
3. 書名 A New Companion to Herman Melville (Maki Sadahiro, "Melville's Twentieth-Century Revivals." pp. 23-35)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 アメリカ文学史と東欧	開催年 2023年～2023年
----------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関